

神戸市 ウェアラブルデバイス推進会議（第 1 回） 議事要旨

出席委員＝塚本、稲見、寺田、富田、中内、福田、村岡

欠席委員＝上善、杉本、西田

オブザーバー＝坂本（アシックス）、石原（近畿経済産業局）

事務局（神戸市）＝松崎、長井、磯部

1. ウェアラブルデバイス推進会議の目的・趣旨について

【松崎】ウェアラブルデバイスを使用した市民参加型の実証事業を実施したい。また、オープンデータの推進も行っているところで、これらを有機的につなげて、新たな市民サービスの創出を目指している。実証事業を行う分野・テーマ、さらにはその方法について、意見をいただきたい。

2. ウェアラブルデバイス推進会議のメンバー自己紹介

3. ウェアラブルデバイス推進について

【塚本委員】これまで様々な取組みをしてきたが、ウェアラブルデバイスは作る側も使う側も経験が必要。このたび神戸市でこのような推進会議が開催されることになり、神戸からウェアラブルデバイスの取組みが立ち上がったという形にしたい。まず、そのための分野・テーマしぼりをしていきたい。

(1) これまでの取組み紹介

【塚本委員】神戸ルミナリエ関連（光る募金箱、LEDダンス→神戸発祥をPRしていきたい）ウェアラブルコンピュータ研究開発機構（理事長：塚本委員）、日本ウェアラブルデバイスユーザー会（代表：塚本委員）、ウェアラブル環境情報ネット推進機構（理事長：板生 清・東京大学名誉教授）、超人スポーツ協会（代表（共同）：稲見委員）といった様々な団体が立ち上がっている。自治体もそれぞれの特色に合わせた取組みを始めており、神戸市も特色を活かした取組みをしたい。

(2) 神戸らしい取組みが期待できる分野について

【塚本委員】ファッション（ファッション産業を元気に。拠点は六甲アイランドで）、医療（手術の際に装着など。拠点はポートアイランドで）、ロボット（パワーアシスト、ウェアラブルロボット産業を盛んに）、スポーツ（ゴルフ、野球、サッカー、マラソン、ラグビー）、くつ（長田のくつ、アシックスにもご協力をいただいて）、観光（異文化と出合える街、サービスする側も外国人とうまくコミュニケーションできるようなデバイス）、グルメ（食・スイーツ・バル）、音楽（ジャズ）、防災・減災、工業、有馬温泉。

【寺田委員】ラグビーではすでにナショナルチームでもウェアラブルデバイス（加速度センサー・GPS）をトレーニングなどに活用している。取り入れてかなりチーム力が上がった。

【村岡委員】神戸市としてウェアラブルデバイスを活用して何かやると宣言してはどうか。

【稲見委員】超人スポーツ協会では、新しいスポーツを作るためのハッカソンやブラインドサッ

カーに取り組んでいる。また、筑波大学のエンパワメント情報学はオリンピックに向けた強化の取組みを行っている。

【村岡委員】遠藤謙氏と義足を活用した実証実験を神戸でできないかという話をしたことがある。

(3) 神戸マラソンにおける実証事業について

【坂本氏】活動量計を活用したウェアラブルの実証実験ができないかと考えている。

【村岡委員】昨年大阪マラソンでの実証も面白かったが、さらにいろいろと可視化できるようになるとさらに面白い。また、心拍のデータなどが取れると良い。

【塚本委員】マラソンでは大々的にも個人的にも実証ができるのでやりやすい。昨年大阪マラソンではケイオプティコムがタグを道路と個人のくつに付けて、ランナーの位置がわかるようにしていた。個人であれば、スマホから位置情報は取れる。

【村岡委員】モニターとして配るだけでも意味がある。使ってみないと良さがわからない。

【坂本氏】ウェアラブルデバイスの購入に二の足を踏む人が多いので、たくさんの人に体験してもらう必要がある。

(4) 医療・介護分野でのウェアラブル活用について

【稲見委員】医師が睡眠時無呼吸症候群のチェックなど、体調の変化・未病を検知するためにウェアラブルデバイスを活用できないかと注目している。

【富田委員】健康寿命対策は国家課題としても挙がっている。医療費抑制につながる素晴らしい取組みとなる。

【塚本委員】許可を受けた医療機器で計測したものしか、医者は診断に利用できない。特区などをとって実証できればいいが、いずれにしてもガイドラインなどを作成する必要があるだろう。

【村岡委員】医療となるとそのあたりが難しいので、トレーニングやライトリハビリに活かさないか。

【稲見委員】健康管理目的ということであれば、問題ないだろう。

【寺田委員】健康の分野では、九州ですでに何万人ものデータを取っている。神戸市でメインピックとするかは微妙である。

【塚本委員】行政としては介護の分野でも実証できるのでは。

【松崎】介護の分野ではIT化が遅れている。ノウハウ継承の部分も課題となっている。障害者の方を対象とした訓練施設でも活用できる。

(5) 防災・減災分野のウェアラブル活用について

【村岡委員】神戸は防災・減災の分野では他の自治体と比べ物にならないくらいの厚みがある。

【松崎】教材として教育や訓練に活用してほしい。震災当時の写真など、オープンデータも活用できる。また、災害時の受援にも活用できる。

【福田委員】災害時のパニック状態の中で、容易に使えるものでないと意味がない。

【寺田委員】アメリカでは消防隊に取り入れている。高熱を検知して、危険な場所を把握することなどに活用している。

【村岡委員】神戸市でも試験導入や訓練方法を体系化してはどうか。

【松崎】神戸市では職員研修に災害対策会議の疑似体験を取り入れている。そこにも活用できる。

(6) ウェアラブルデバイスに関する周知・啓発について

【塚本委員】 市民向けのセミナーや自治体サミットを開催したい。

【石原氏】 市民（ユーザー）から活用方法を募集したり、ウェアラブルの都市として使いやすい環境を整える必要がある。

4. 次回（第2回）について

- ・日時 平成27年9月4日（金）10：00～12：00
- ・会場 神戸市役所1号館12階PTルーム